

第一生命経済研レポートテーマ（2005年12～2006年1月）

<p>2005年12月号 (通巻105号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・産業トレンド ・セクター分析 	<p>経済正常化への課題 日本経済 ～長生き景気はツイン・ピークス～ 米国経済 ～エネルギー価格急騰下の物価安定～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し F R B議長交代と新議長への期待 中小企業の成長モデルとは 日本経済の10年予測 ～日本経済正常化への課題～ 2005年冬季ボーナス予測 ～民間企業の一人当たり支給額は前年比+1.6%～ 「兼業型」による「高付加価値化」がさらに進むガソリンスタンド 産業別利益動向</p>
<p>2006年1月号 (通巻106号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる日本の人口 ・セクター分析 	<p>再び「陽はまた昇る」か～昨年は大きな転換点～ 日本経済 ～無視できない2006年のアップサイド・リスク～ 米国経済 ～2006年中間選挙を前に問題山積～ 日米経済の現状と6ヶ月後の見通し 2006年のマーケットは大きな転機になる可能性も 中小企業金融を考える① 2005・2006年度日米経済見通し 民間シンクタンク・調査機関の経済見通し ～2006年度の見方はやや分かれる～ 人口の増加が続く大都市圏と減少局面に入った地方圏 ～よくわかる日本の人口⑦【都道府県別人口 その1】～ 産業別利益動向</p>

編集後記

20年ぶりの寒波に見舞われている。地球温暖化の影響などから近年は「猛暑と暖冬」が続いてきただけに、この冬の寒さは本当に身にこたえる。もっとも、寒い方が良いところもある。それは、冬季オリンピックの開かれるイタリア・トリノだ。

トリノオリンピックは、2月10日から26日までの17日間、世界85の国・地域から2,500人の選手が参加して7つの競技・84の種目で熱戦が繰り広げられる。オリンピックというと夏の大会のイメージが強いが、冬季大会も今回のトリノで20回目となる。そもそも冬季大会は、クーベルタン男爵の提唱で1896年に始まった夏の大会より28年遅れて1924年にフランスのシャモニー・モンブランで始まった。JOC（日本オリンピック委員会）のHPによれば、当初はIOC（国際オリンピック委員会）が後援しただけの「国際冬季競技週間」という競技会を、翌年になってIOCが正式に「第1回冬季大会」に追認したという奇妙な生い立ちであったそうだ。その後80年にわたって、しばしば暖冬・少雪に悩まされながら発展してきた。日本選手は1928年の第2回大会から参加しているそうだが、最も印象に残るのはやはり34年前の札幌大会・70m級ジャンプで表彰台を独占した日の丸飛行隊であり、98年の長野大会でのジャンプ陣やスピードスケートだろう。今回のトリノも代表選考で熾烈な戦いのあった女子フィギュアやスノーボードなど、多くの競技でメダルが期待されている。生放送は日本時間の深夜から明け方になるようだが、是非とも4年に一度の雪と氷の祭典を楽しみたい。

(N. I)